

「心を照らす光」

～あなたは自分の心をしっかり見張っていますか？～

Ⅱコリ4：6～7

私たちはコンサートや美術館などで音楽や絵画に触れる時、作者の心、演奏している方の心にある思いに感動することがあります。その作品に携わった人の心が鈍ったままではいくら人間的な努力をしても人に感動を伝えることはできません。私たちも多くの人に愛を現したいと願い、神にあって正しい事をしたいと常に思っています。しかし正しい事が行動に表されないのは私たちの感情に邪魔されている事が多々あります。私たちの心の内側が行動に影響しています。ですから私たちがどのような行動をしているのかを見ていると内側の隠している事が表れています。それを隠しとおすために私たちは人の目を気にする行動やうわべを繕うような行動ばかりになっています。有名な小説に「罪と罰」というものがあります。この物語はある主人公は自分の価値判断で、悪と思われる人を殺し、財産を貧しい人に配ればと思い実行します。しかしその過程で罪のない人も殺すことになってしまいます。そして主人公は逃亡します。その逃亡している中で、1人の娼婦に出会います。娼婦は自らを犠牲することによって家族を支えながら生きていました。その時、主人公は自分のしようとしたことは自らの犠牲ではなく他人を利用する生き方であることに気づき、自らの罪に気づき、罰を受けるために警察に出頭していきました。この事から、自分を神と思ひ込み、自分の思い通りにするような考え方で、すなわち自己義による行動では周りを幸せにすることはできません。神は私たちの心がどのようにになっているのかを見えています。旧約聖書にはダビデを王に油を注ぎ、任命する記事が書かれていますが、その時預言者サムエルは容姿で判断しようとした。エッサイの家へ導かれたサムエルは息子たちを次々見ますが、容姿が素晴らしい人を選ぼうとしたサムエルは神によってとどめられました。そして「しかし【主】はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、【主】は心を見る。（Ⅰサム16：7）」と聖書には記しています。ここ事からも神はうわべを見ずに心を見ている方です。人の容姿など、人によって変わってしまう基準によって見ていません。神は心を見て、その人を見ています。新約聖書にはイエスキリストはパリサイ人に対して厳しい言動が見られます。パリサイ人は人のうわべに基準を置いていたため、大事な教えも形式的なものになりました。周りの人からどのように見られているのかばかりに気にするような教えに従っていました。パリサイ人と取税人との比較が聖書には記されています（マタイ23：25～26）パリサイ人たちは着飾り、人から立派に見えるように献金をしていました。しかし取税人は自分が罪人であることを認め、神の前に素直に出ていました。神は心の値打ちは計られるお方です。（箴 21:2）私たちはありのままの本当の姿を隠しているために、神の前にも人の前にもまっすぐに出る事ができなくなります。いつでも自分の正当性を探し、正しいことを他人にアピールすることで生きていくことになります。私たちが内側を隠していきているのは、パリサイ人と同じです。私たちは取税人のようにありのままを神の前に出していきましょう。神は心の中のきれいごとはもう聞きたくありません。ですから心を照らすために①闇から脱出する。月は自らが光ってはいません。太陽に照らされているだけです。私たちも同じです。月のように太陽に照らされるところに出るだけです。（ヨハネ1：1～5）光は闇の中に輝いています。やみはこれに打ち勝たなかったのであれば、私たちも自分の心にある闇の部分に光をださなければいけません。私たちは心に闇があると光に出る事を拒みます。自らの決断によって光にでることを選択しましょう。②心を隠さない。私たちがよくしてしまうのは一部分だけ光にだし、出たくない分については出す事をやめてしまっているのでは意味がありません。私たちが隠してしまう部分にこそ、明るみに出さなければなりません。心を隠すことなく神の前に出す決断をしましょう。③神の愛と真実に歩む。（エレ31：1～5）私たちは実を結ぶために生かされています。私たちが闇の中においては真実に歩いていくことはできません。私たちが暗闇から出なければなりません。月を見ると太陽がどの位置にあるのかが分かります。そのように、私たちは神からの光を常に反射し、神の存在を現していきましょう。そのためにはまず私たちが闇から出なければいけません。一部分だけ出すというようなことでは意味がありません。イエスキリストの十字架はすべての暗闇を救う力があります。神の愛はすべてを覆います。神は恥をかかせようとしているではありません。むしろ光の中で愛を感じる事ができます。もう一度私たちの心をしっかりと見張り、闇の部分を取り除き、神の存在を現すことのできるように心を照らす光の中を歩んでいきましょう。（要約者：平澤一浩）